

安定供給できるユズ産地の振興（平成 29 年度）

1 要約

産地の振興を図るために、高知市ユズ産地構造改革計画（以下、産地計画）に基づき、優良系統苗木の新植指導、担い手の確保のための産地提案書の作成、労働力確保対策の強化、省力化技術確立等を支援した。また、中央研修や現地検討会、月 1 回の技術情報紙の発行等で、基本的な技術情報を提供し、生産安定につなげるように部会を誘導した。結果、部会活動は活発になり、新規就農者の受け入れ体制、事業導入による新植などの新たな動きが出てきた。

2 課題を取り上げた理由（背景・目的）

高知市の北部地区において約 200 戸の農家が 62ha でユズの栽培をしており、多くは、兼業農家で高齢化が進んでいる。また、老木化や粗放園も増加し、隔年結果や異常気象にも見舞われ、所得が不安定になってきている。

そこで、産地計画の実践による産地の振興と販売単価が高い青果及び酢玉 A(果皮も販売できる)の生産への誘導を行う。



せん定講習会の様子

3 対象および連携する団体

JA 高知市土佐山柚子生産組合、
JA 高知市、土佐山地域振興課、夢産地とさやま開発公社、地域支援企画員

4 目標（評価指標）

	現 状	目 標	実 績
優良系統苗木の新植・改植	2.4ha	2.5ha	3.3ha
現地検討会	3 回	6 回	7 回
産地提案書作成	なし	検討	(完成)
指導農業士	0	1	2
労働力の確保支援策の活用農家戸数	10	15	7
省力化技術の確立	未確立	確立	未確立
青果生産農家数(戸)	17	22	17
酢玉 A 生産割合(%)	15	20	14

5 主な活動内容

1) 面積拡大と隔年結果の是正

- ・現地巡回や果実肥大を調査し、生産量を予測した。また、栽培技術向上のため、幼木の主枝誘引方法、摘果方法、せん定方法など現地検討会を実施した。

2) 生産基盤の維持

- ・役員会やチーム会等で、担い手確保対策としての産地提案書を検討、作成した。また、研修の受け皿として指導農業士の推薦を支援した。
- ・労働力確保のため、「JA 無料職業紹介マッチングシステム」開発を支援したり、

高知市一帯への雇用募集を行った。また、生産者間で助け合う共同防除やせん定作業の受託組織化の検討を行った。

3) 収益性の高いユズづくり

- ・省力化技術の確立のため、省力化実証ほ設置し調査した。
- ・高品質果実の推進のため、定点園地での果実や作況を調査した。また、短棘系ユズを果樹試験場と連携し、調査した。
- ・毎月、技術情報誌「ユズだより」を作成・配布し、品質向上を誘導した。
- ・中央研修会や現地検討会、個別巡回等で品質向上につながる情報を提供した。

6 活動の結果および成果

1) 結果

優良系統苗木の新植・改植面積は、3.3ha となった。隔年結果で裏年で、10月の台風の影響も受け、酢玉加工数量は 732t (前年比 70%)、酢玉A生産割合は 14% (前年比 72%) となった。現地検討会を 7 回実施し、栽培技術力の向上を図った。

産地提案書が作成でき、指導農業士 2 名が認定された。JA 無料職業紹介所への新規ヘルパー登録人数が 39 名増え、収穫作業のマッチング実績は、7 戸で 13 名となった。また、「JA 無料職業紹介マッチングシステム」も完成した。

2) 成果

現地検討会により、部会活動が活発になり、情報提供や共有が図られた。また、産地提案書完成により、担い手の確保が期待できる。「JA 無料職業紹介マッチングシステム」については、JA 高知市だけでなく県域で活用される見通しとなった。

7 残された課題および今後の活動

1) 残された課題

- ・労働力確保対策として検討した共同防除は実施にまで至らず、せん定作業の受託組織化も試行にとどまった。
- ・高品質果実生産には薬剤防除だけに頼らない総合的な栽培技術が必要。

2) 今後の活動

- ・今回作成した産地計画を実効性のあるものにするため、ユズチーム会や中央研修会、現地検討会で、具体的な対策の検討を行う。
- ・JA 無料職業紹介所の活用を促す一方で、生産者間で助け合える新たな取り組みも勧めていく。
- ・中央研修や現地検討会で総合的な栽培技術の情報提供をしていく。

【担当者および部門名】 伊藤政雄（果樹部門）、西本年伸（産地育成担当総括）
門田いづみ（経営・担い手部門）、小笠原香（地域営農担当総括）